

会山行 No.2434

八ヶ岳連峰：八ヶ岳全山縦走（麦草峠で敗退）

- ◆日程 2023年8月5日（土）
- ◆メンバー L:DT、MT
- ◆天候 晴れ時々曇

コースタイムが10時間を超過する持久力系山行企画シリーズとして今年は馬蹄形縦走、表妙義縦走を企画実行し、集大成となる八ヶ岳24時間全山縦走にMTさんと臨んだ。

竹橋発の夜行バスに乗り込み、朝4時半に観音平バス停に到着。ここからコースタイム23:43、累計獲得標高3,766m、累計距離32.9kmの大縦走が始まる。

歩き始めは気温が低めで歩きやすい。いきなりの急登を登り切った編笠山からの360度パノラマは大変美しく、遙か彼方に見えるゴール地点の蓼科山までの遠さに驚愕する。10時過ぎに権現岳山頂付近で休憩をしたらそこからガッツリくだってキレット小屋、からの



赤岳までのザレ・岩場の急登。気温も上がってきて太陽が照り付け、汗が滝のように流れる。体力をできるだけ消耗しないよう、息が上がらないゆっくりペースで歩みをすすめ、13時過ぎに赤岳登頂。目標設定のため24時間縦走を3ステージに分割し、ステージ1が赤岳山頂（急登ゾーン）、ステージ2が麦草峠（稜線ゾーン）、ステージ3が蓼科登山口（しっとり北八ヶ岳ゾーン）としていたので、まずはステージ1クリアである。

赤岳からは稜線沿いに急なアップダウンを繰り返す。

硫黄岳を超え山びこ荘に到着したのが17時前。この休憩中に、私がヘッテンの予備電池と予備ヘッテン、携帯のモバイルバッテリーを忘れてきたことに気づいて愕然とする。ヘッテンに入っている電池だけではとても一晩持たない。下山やむなしかとあきらめかけたところ、MTさんから次の山小屋で電池が売ってないか確認しようと提案をもらい、とりあえず根石岳山荘まで先を急ぐ。

18時前に根石岳山荘に到着、幸い電池を購入することができた。ここの山荘で水の補給、トイレ休憩を取り、美しい夕日の天狗岳を目指して再び歩き出した。東天狗岳を登頂し、下山し始めたところで日が暮れる。天狗岳を超えたら歩きやすいはずという記憶とは裏腹に、岩場が続き夜露でしっとりとした岩は滑りやすく歩みにくい。昼間は明快なルートも夜間はヘッテンで照らしながらルートを探さなければならないため、より集中力が必要となり一気にペースが落ちる。

高見石小屋へ到着した時には疲労困憊、体育座りで15分ほど仮眠をとるも疲れが取れない。麦草峠までの道中ではなんでもない所で転倒し、山行を継続することの危険を感じる。MTさんに麦草峠で終了としたい旨を伝え話し合い、23時のステージ2ゴールの麦草峠をもって山行終了。装備のビビィとツェルトでビバークし、翌朝タクシーの迎えを待って帰路についた。

結果、行動時間18時間、累計獲得標高2,575m、累計距離19.9kmでのDNF（Do Not Finish）

となった。一番の敗因としてはやはり夜間歩行に慣れていなかったこと。麦草峠到着時点でもう一步も歩けないという疲労感ではなかったが、タクシーが呼べるエスケープポイントである麦草峠から23時という時間帯に再び山に入るといふ決断ができなかった。もしリベンジをするのであれば、夜間歩行の訓練を数本入れてから臨む必要があると感じた。(記：DT)

DTさんのド変態計画に、勢いだけで参加表明したものの、ゴールが全くイメージできない行程に、日が近づくにつれ弱気になる…

やはり計画通りには進まない。赤岳山頂手前からお腹の調子が悪くなる。出産の呼吸法を思い出し、痛みに堪える。リタイアが頭をよぎるも、頂上山荘で休憩し回復。大幅なタイムロスとなってしまった。日が沈むと不慣れな夜歩きに加え、ヘッドランプがけて襲ってくる無数の虫にメンタルを削られる。そして無念のリタイア…

時間が経つにつれて、じわじわと悔しい気持ち湧いてくる。だが今の自分にはまだまだ実力不足だった。さあ、次は誰か挑むのか!! (記：MT)

CT: 観音平 4:44 - 編笠山 7:20 - 権現岳 9:20 - 赤岳 12:36 - 横岳 15:06 - 硫黄岳 16:17 - 東天狗岳 - 19:00 - 麦草峠 23:00

